



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

「主よ、倣わせてください！」

日本基督教団 隠退牧師

安藤 脩

コロナ禍の中、皆さま守られてお過ごしでしょうか？

昨年(2020)の1月、日本での新型コロナウイルス感染症第一例が報告されて早1

年半。政府の対応の悪さもあって、現在第5波を迎えています。感染者総数は90万人を超えてしまいました。蔓延状況は益々悪化し、1日の感染者数が1万人を超えてしまう日もあります(7月末時点)。世界の1億9500万人から考えるなら、まだ良い方だなどとは言っておられない。日本はもちろん、世界的にも収束がいつになるのだろうかと不安に思っている人が多いことでしょう。不安はこれだけではない。気候変動による自然災害も増大しています。

先日の熱海における土石流災害には驚き、心傷みました。今までに経験したことのない集中豪雨や台風も年々巨大化し、災害は増大しています。他国のことではありますが、中国河南省の豪雨では300万人の被災者が出、地下鉄が浸水したというニュースもありました。この気候変動の最大原因は地球温暖化だといえます。地球温暖化は気候変動だけでなく、氷河の融解にも大きく関わっています。すぐに起こることではないのですが、もし、南極の氷床が全て融解したら、海面が61m上昇するのだそう。南極に次いで大きな氷床であるグリーンランドが融解したら海面が7m上昇すると、先日テレビでも取り上げられていたのを見ました。海面が

1m上昇するだけでも東京では江東区、墨田区、江戸川区、葛飾区のほぼ全域に海水の侵入の影響が出、大阪も北西部から堺市までの海岸線のほぼ全域が水没するのだそうです。災い、不安材料だけを書いてしまいましたが、これらは現実であり、一日一日と地球環境は悪化へと進んでいるのです。

何故このような災禍が起こるのでしょうか？神の裁きでしょうか。そうではありません。神の裁きならヨハネ黙示録の6章以降に記されていますが、これ程度の災禍ではありません。神の裁きはもっと厳しく、人間を含め地上の3分1が死滅してしまうほどです。

天地を創造された愛の神は悪を行うことはありません。それと、このお方の知らないところで何事かが行われることもありません。このコロナウイルス禍、種々の災害も神はご存じなのですから、私達にとっては災禍であったとしても、必ず意味があるのでしょう。私が先ず思うことは人間の傲慢さであります。そしてこれは、神なしで生きようとした最初の人アダムとエバの罪でもありました。現代、人間は「治めなさい」と神より託された他の被造物を、御旨とは逆に破壊しつつ、他者に敵対しつつ自分中心、自国ファーストの考えに突き進んでいます。

このコロナウイルスを通して、このような人間の悪が益々、はっきりと顕在化しているのではないのでしょうか。十字架で私たちの罪を贖われた主イエス様に、今こそ目を注ぎ、「あなたの生きざまに倣わせてください！」と祈る時と思わされています。



「わたしは福音を恥としない！」



ローマ人への手紙 1 : 16, 17
日本基督教団 新宿西教会牧師

深谷 春男

【聖書】 16. わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも、すべて信じる者

に、救を得させる神の力である。17. 神の義は福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。信仰による義人は生きると書いてあるとおりでである。(16、17 節) (聖書協会口語訳)

私たちの教会では毎朝 6 : 00 ~ 7 : 00、早天祈祷会を続けています。まず朝、主の御前でみ顔を仰ぎ、讃美をし、御言葉を聞いて、それを黙想し、分かち合って、祈り合うとあっという間に 1 時間は過ぎ去ってしまいます。

テキストは、「アパルーム」というデボーション冊子を使い、グループ・LINE を使用しながら、10 人前後の方々と共に、すばらしい恵みの時をもって、ハレルヤ！と一日を始めます。これは 8 月 3 日の早天の時の、聖書箇所牧師の霊想です。

①福音とは何か？を明確に理解する。

福音とは何か？その明確な把握が大切です。この福音がハッキリしないと全てが漠然としてします。

「福音とは、主イエスの十字架と復活とを信じる、洗礼を受けて、罪と死から救われ、神の子となること。」

私は、今年の 4 月から、ローマ書の講解説教を続けています。その中で、1 章 3、4 節を通して深く示されました。「福音」は御子に関するものであり、主イエスの受肉の頂点は十字架、受肉の生涯を終えた後は、復活という形で信仰者を助け励まし、聖臨在をもって助けて下さった。「受肉の頂点が十字架」

「現在は完全なる勝利者として復活を証ししていただく。この「十字架と復活」が福音の一番中心にある事を教えられました。

「福音とは、主イエスの十字架と復活とを信じる、洗礼を受けて、罪と死から救われ、神の子となること」。ここをしっかりと理解し、肝に銘じたいと思います。

②福音を恥としない！

初代教会時代には、人間の生きて行くための哲学や数学等の学問が盛んであり、大富豪も貧しい人々も、自由人も奴隷も、学者も無

学な人も、実業家も芸術家も様々な人々が住んでいたと言われます。使徒行伝 17 章ではパウロはアテネのアレオパゴスの評議所で福音の演説をしたが、最後に死者の復活までを語ったときに、多くの有識人は、パウロの演説をあざ笑い、「このことはいずれまた・・・」と言って去って行ったと記されます。人間の肉体をさげすみ、人間の精神的な崇高さを強調するプラトニックな背景の中では、死者の復活のメッセージは受け入れがたいものに響いたのでしょう。

③福音は、信じる者をすべて救う神の力である！

ここでは福音は力であるといわれます。「信じるすべての人に」与えられる、救いの力なのである。十字架の主イエスを信じるということは、一見すると、自分の罪を認め、自分の恥をさらすような出来事なので、弱々しく見える。でも、本当に人を救い、人を造り変えるのはこの十字架の福音なのです。

④神の義が福音には啓示される。

「神の義」は「神の救いの計画」の意味。神の救いの計画の中心に、主イエスの十字架と復活がある。それ故に 17 節の内容はこのようである。

「旧約時代から神の救いの計画がなされ続けたが、神の救いの完成は主イエスの十字架と復活という働きにある。それは信仰を持って受け取るべきであり、この信仰によって、全ての人は本当に生かされる人生へと進むことになる。」

⑤福音は、信仰に始まり、信仰に至らせる。

神の救いの計画は、「信仰」をもって受け入れられることが大切。アブラハムのようにこれを信じること。イザヤや、エレミヤの信仰へと整えられ、主イエスの救いを示すパウロの信仰内容、信仰義認、聖霊による聖化、栄化の恵みへと完成してゆく。

また、今日のアパルームの証しはウクライナの女性、マリアさん。ソビエト連邦の共産主義の猛威の中、少女時代も、青春時代も迫害と試練の中をかいくぐってきた。ご両親やおじいちゃん、おばあちゃんの祈りに支えられつつ、その試練に耐えた。学校の先生方も含め、周りのすべてが敵だった。大学入試も合格を与えられなかった。しかし、彼女は信仰を貫いた！。世界中にはキリストの証し人が満ちている。今日もこれらの方々と共に、聖霊の助けを得、喜びと感謝を持って告白したい。「わたしは福音を恥とはしません。それは信じるすべての人を救う神の力なのです！ハレルヤ」と。

立証「みことばの力」



日本基督教団 横浜岡村教会牧師
杉本和生

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカによる福音書 23 章 34 節)

この聖句は私を救ったことばです。両親の別居により、4 年生の時、小学校でいじめ

を受けました。浮気をしていた父からの虐待や兄からの暴力などもあり、誰にも相談できずに死を覚悟し、「誰にも愛されていないし、神から見捨てられている。自分は被害者、加害者である皆が悪い。」と思っていました。丁度その頃、夏のバイブルキャンプで十字架の説教を聞きました。そこで、私は決して一人ではなく、神に愛されていること。自分自身が罪人であることに気付かされました。何も罪を犯していないイエス・キリストが十字架上で私のため、そして私たちの罪を全部背負ってとりなして祈って下さったことを私は受け入れました。

この言葉は私の心に衝撃を与え、私を変えてしまいました。私は自分の罪に泣き、自分の罪を赦してもらえた喜びに溢れたのです。

いじめは無くなりませんでした。苦しくて泣いて祈った時、この聖句が心に響きました。そして、今度は私が加害者を赦す番だと思えたのです。憎しみが愛に変わり、クラス全員のため、家族のために祈れるようになりました。

祈り続けて二カ月。私はいじめから解放されていきました。数年後、兄はキャンプで救われて、私に謝り、洗礼を受けました。

私は今も朝のデボーションの中で日々、聖句から力を頂いています。

第 39 回横浜岡村アシュラム報告

「第 39 回横浜岡村アシュラム」7 月 10 日(土)～11(日)。主題「(人生の) 終わりと(神の国での生活の) 始まりに備える」(コリントの信徒への手紙第一の手紙 15 章 51～58)。

2020 年度の横浜岡村アシュラムをコロナ禍のため休会にしておりました。しかし、今年度は各種防疫対策(来会者全員に入口でのマスク配布・検温とアルコール消毒・個別のフェイスシールドの装着を義務付け、24 時間換気装置や礼拝堂での高性能空気清浄機の稼働、アルコール消毒液の複数配置、霧吹きによる定時アルコール清掃)を通常運転してきましたので、時短ではありましたが横浜岡村アシュラムを行うことができました。

10 日(土)午後 2～5 時では開会礼拝、オリエンテーション、开心の時、祈りの細胞、ファミリーアワーを行いました。出席者 11 名。

11 日(日)は 8 時から静聴の時、祈りの細胞。J C(教会学校)でも祈りの細胞を行いました。礼拝時間(福音の時)には 28 名が出席、昼食を各自(コンビニおにぎりやゆで卵とペットボトルのお茶)とし、一時半から充満の時を行いました。最後まで残られた方は 15 名でしたが、一年ぶりのアシュラムで豊かな交わりが与えられました。最後の「イエスは主なり」の挨拶では「本当にやってよかった」と声が上がりました。アシュラムの恵み深さを思い知るひと時でした。(牧師 杉本和生)



事務局より

世界を震撼させている新型コロナウイルスにより、私たちの生活は一変してしまいました。連日のように感染者数が発表され、世の中の不安と恐怖でいっぱいです。しかし揺るぎない信仰を持ち神様に守られていることを実感しつつ、祈りの中で日々を送っていきたくと思います。

各地のアシュラム報告

西川口教会アシュラム 祈りの細胞のみで開催予定
浦和別所教会アシュラム 中止
仙台青葉荘教会アシュラム 来年に延期
志木教会アシュラム 秋に開催予定
北海道函館栄光教会アシュラム 12 月 3 日開催予定
関東アシュラム 二〇二二年 9 月(開催予定)
城北アシュラム 二〇二二年 2 月 11 日(新宿西教会 主題「戸の外に立ってたたき、共に食事をしてくださるキリスト」)

スタンレー・ジョーンズ



「日本クリスチャン・アシュラム連盟 60 周年記念誌」より 理事長 横山義孝

1945 年 8 月、日本は第 2 次世界大戦に敗北し精神的に物質的に荒廃の極にありました。特に軍国政府の柱となっていた天皇を神とする国粋主義イデオロギーが崩壊し、日本人は心の拠り所がなくなり、思想的精神的な無政府状態となりまさに国家の滅亡といってよい状態でした。

しかしこれは主イエス・キリストの父なる神が日本に与えて下さった最良の伝道のチャンスとなったのです。連合軍最高司令官マッカーサーの指令によりキリスト教会各派は、種々の弾圧、宗教統制から完全に解放されて、積極的に日本の同胞に対する伝道活動が展開されることになったのです。いち早く始まったのが、NCC（日本キリスト教協議会）が主体となった超教派伝道でした。

この働きに対して最初に協力を申し出てきたのが、1907 年からインド伝道に生涯を献げていた、スタンレー・ジョーンズ師でした。同師は非常に霊的な器であるとともに、インドに宣教の拠点を置きつつ、国際間の平和の使者としてもそのキリストの愛と和解の理念を実践したのでした。第 2 次大戦勃発前夜、当時のルーズベルト・アメリカ大統領に対して進言し、日本の天皇宛てに戦火を交えることのないよう打電を要請したのでした。不幸にして大戦になってしまいましたが、これを憂えていた同師は 1949 年来日以来 1971 年まで、ほぼ 2 年ごとに来日して精神的に疲弊した日本の同胞を慰め励ました。そして、キリストの福音こそが日本人の希望であるとし、全国伝道を実施して一定の成果をおさめたのです。この時彼は、日本は 500 年に一度の伝道のチャンスを迎えていると言って意気盛んなものがありました。

スタンレー・ジョーンズがアシュラムを始めたのには、彼自身の深い霊的経験がありました。1907 年、23 歳で彼（当時米国メソジスト教団宣教師）はインドの民衆に福音を伝えたいとのビジョンを与えられ、勇躍インドに乗り込んだのでした。若さに物を言わせて日夜伝道に専念したのでした。インドの社会状況は誠に複雑でした。激しい貧富の格差、極端なカースト制の階層社会、町々に際限なく広がるスラム街、それにインド教、バラモン教、ヒンズー教、イスラム教等の土着宗教による異なった価値観と生活スタイルなどなど。宣教 8 年にして、彼は疲労困ぱいし、

アシュラム運動の継続を

コロナ禍が終息せず、かえって拡大している今、多くの人が集まるとの集会などは開催することができません。しかし、礼拝や聖会などがインターネット、オンラインを通して各地で行われ始めています。小規模でも、また、アシュラムを行っています所がございましたら事務局までお知らせください。みことばの実践をともに共有できますよう祈ります。

精神的にしばしば失神状態に陥り、1 年間、アメリカで休養の時をもって、インドに帰ってきてはまだ、破壊された体の状況は治らなかつたのでした。

ある日、ラクナウの教会で祈りをしていて、主の御声を聞きました。「わたしがあなたを召したこの仕事に、あなたは用意ができているのか」と。彼は答えて「否、私はおしまいです。私は精も根も尽き果てようとしています」。すると主は言われました。「もしお前が、心を巡らして、その問題をわたしに返し、それについて思い煩わぬならば、わたしがそれを処理するであろう」と。彼は直ちに「主よ、私はここですぐ約束をとりつけます」とすべてを主に委ねた時、「ある大いなる平和が私の心に入り込み、全身に行きわたった。私はしめたと感じた……生命一満ちみてる生命が私をとらえたのだ。……それ以来不審に思われるほどいささかの疲労の痕跡もなく、私は自分が命と平安と休息と一すなわちキリストご自身によって所有されたことを感じた」と。

この全き「キリストへの明け渡しと服従」の経験が彼のアシュラムの根底にあることを知ることができるのです。

4 回目の来日(1955 年)の時、日本伝道に困難があるのを見たスタンレーは日本のクリスチャンには祈りが必要であると考え、彼の提唱で始められたのが現在の日本クリスチャン・アシュラムです。アシュラムとはインド語で「ア」は「～から離れる」、「シュラム」は「労働」を意味します。インドは歴史的に精神文化が盛んで、工業アシュラム、農業アシュラムなどと呼ばれて、種々の文化領域に従事する人々によって用いられ、1 週間、あるいは 1 カ月静かな森にこもって学習と精神修養に当てていたようです。スタンレー・ジョーンズは精神的指導者マハトマ・ガンジーと親交があり、ガンジーのアシュラムにしばしば参加していたようです。

それでスタンレーはアシュラムをキリスト教信仰の充実深化のために用いるように導かれ、サトタル(7 つの湖)という集会場(現在アシュラム道場になっている)にインド人牧師、英国人宣教師、スタンレーの 3 人が祈りをもって始めたのが最初のクリスチャン・アシュラムでした。日本ではスタンレーの 2 年ごとの来日時に NCC が主催して行われましたが、アシュラムの祈りの意義がキリスト教会に有効であると考えられるに至り日本各地の地域、団体に独自のアシュラムのグループが組織されスタンレー亡き後も、その遺志が受け継がれて今日に至っています。

編集後記—B4 版から A3 版へ。そして縦書きから横書きへ

アシュラム誌は長い間、白黒 B4 版二つ折りで出版されてきました。190 号からはサイズは同じでカラー印刷となりました。そして 203 号からは A3 版二つ折りとし、紙面を大きく見易くしました。そして本号 205 号からはサイズは同じにし、「横書き」としました。それは原稿が横書きで着、それを縦書きに変換する時、特に英数字を漢数字に直すときに文章脱字などのミスを起こしがちになります。到着原稿そのまま横書きにしたほうが良いと判断いたしました。ご理解ください。